

船橋市議会報告会 & ご意見をお聴きする会

毎月第1土曜日10～12時 勤労市民センター

議会で議論になっていること・取り組んでいることを私からお話しするとともに、皆さんのご意見・ご要望をお聞きする会です。

飛び入り参加大歓迎です。ぜひおいでください。

申し込み・問い合わせ info@asakura.chiba.jp あるいは 090 (4075) 5967

市政相談を随時受け付けています

上記報告会においていただくとありがたいです。その他の日でも、いつでもご連絡ください。

勉強・受験相談 随時受け付けています

勉強や受験について何かお悩みがありましたらいつでもおいでください。「船橋市議会報告会 & ご意見をお聴きする会」集いの後に勤労市民センターの喫茶室で食事しますので、その時おいでいただいてもかまいません。

最新の情報は「朝倉幹晴公式サイト」をご覧ください

<http://asakura.chiba.jp>

掲載記事の例

- 市議会質疑速報、視察速報
- 市内小中学校新設、学区再編
- 認知症の対策と予防
- 高校入試対策講座
- 学習サポート

発行者 朝倉幹晴

〒273-0044 船橋市行田2-6-9-411

メール info@asakura.chiba.jp

携帯 090-4075-5967

公式サイト
<http://asakura.chiba.jp>

facebook もやっています。

twitter @asakuramikiharu



- 1988年 東京大学農学部卒
- 89年 駿台予備学校生物科講師
- 95年 船橋に転居（文京区より）
- 97年 安歩権を掲げ、道・駅改善の市民運動スタート
- 99年 船橋市議（無党派）当選以降、徒歩と自転車で活動中

- 愛知県豊橋市生まれ
- 日本分子生物学会会員、日本癌学会会員

著書 「休み時間の生物学」（講談社）
「病気とくすりの基礎知識」（講談社サイエンティフィック）
「円」「三角形」「図形の証明」

無党派市議会議員 朝倉みきはる

（駿台予備学校生物科講師）

理系の視点で
船橋市政に提言!!

議会・諸活動報告書
あさくらだより



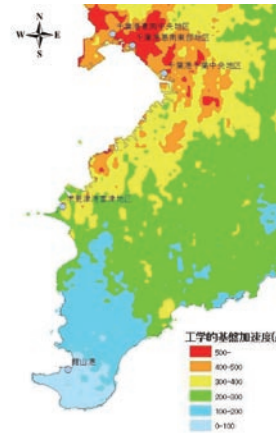
info@asakura.chiba.jp

<http://asakura.chiba.jp>

95号 (2017年1月発行)

2016年11月29日市議会質疑報告

「千葉県地震被害想定調査」に基づく防災を



港湾施設と地震動
(県北西部直下地震)
報告書 p237

千葉県は2016年3月に「千葉県地震被害想定調査報告書」を発表し、その中で、「千葉県北西部直下地震」（市川市～千葉市直下のフィリピン海プレート内を震源、M7.3、震度6強）、を想定しています。

500galの地震動で船橋市湾岸部では35バース（船の着岸場）が被害を受け、乾燥した冬の夕方、飲食店が火を使う時間帯では、26200棟が焼失する火災が発生、平日12時では、市外外出者184000人、帰宅困難者55400人が発生するなど深刻な被害が想定されています。

千葉県がこのような厳しい予測を出した以上、船橋市としてもこれを踏まえ、できるだけ被害を減らしていくことができるように早急に事前対策を進めるべきと質疑しました。（→詳細2・3面）

結核・インフルエンザなど感染症への対策を

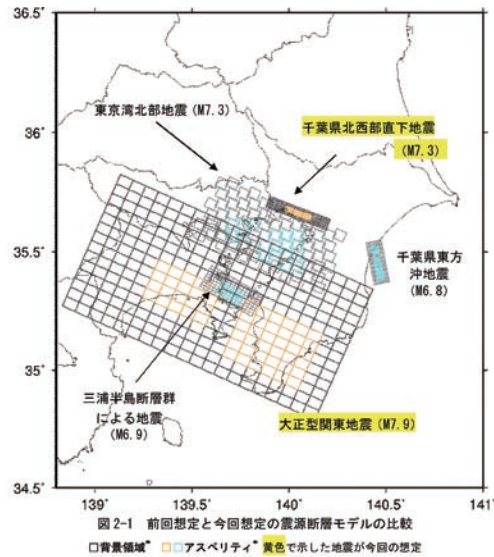
昨年市内で結核集団感染が発生しました。日本はいまだ、欧米諸国に比べ結核感染者が多い結核中まん延国であり、結核対策を徹底すべきです。あわせて、毎年発生するインフルエンザ・ノロウイルス、被害が深刻なジカ熱・はしかなど感染症に強い街を目指して質疑しました（2016年9月質疑→詳細4・5面）。

船橋市議会で超党派の議員連盟発足

市議会では意見の対立もありますが、超党派で協力できることも数多くあります。2016年に、自民党市議から共産党市議まで参加する超党派の議員連盟（船橋市動物愛護推進議員連盟、船橋市LGBT・性の多様性を考える議員連盟）が発足しました。無党派の市議としてそれぞれの課題を進めていきます。（→詳細6面）

千葉県地震被害想定(2016年3月)に基づき、市は防災対策を

2016年3月にまとめられた「平成26・27年度千葉県地震被害想定調査報告書」では主に2つの深刻な地震が想定されている。M7.3の「千葉県北西部直下地震」とM8.2の「房総半島東方沖日本海沿い地震」である。



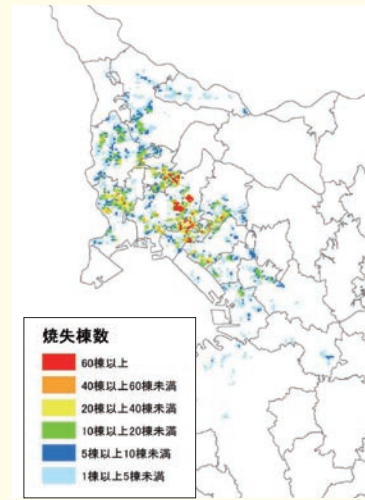
とりわけ、千葉県北西部直下地震は、「市川市から千葉市直下のM7.3のフィリピン海プレート内の想定地震（過去に発生が確認されていない地震）である。

首都直下地震は南関東地域の直下を震源とする大規模な地震とされ（首都直下地震対策特別措置法）、発生場所は特定されていない。このことから、千葉県では人口が集中する県北西部で発生する地震が県に対し最も被害が大きくなるのが想定されることから、新たに本地震を設定し**千葉県北西部直下地震**と命名した。この地震を防災・減災対策の主眼に置く地震（シナリオ地震）

とし、被害量の算出、シナリオ作成等を行った。」とされ、県が最大の被害を想定し、その被害を未然に防ぐ対策を進めていくためにこの地震を設定し被害予測をしたことが述べられている。甘い設定ではなく、きびしい設定をして対策をしていく県の予測を受け止め、市として防災・減災対策を考えていかなければならない。

質疑1 p237では、「港湾施設と地震動」で工学的基盤加速度が示され、船橋の潮見町、日の出、湊町、浜町、高瀬町の35バース（船が貨物の積卸し及び停泊するために着岸する場所）が被害を受けると想定されている。

「報告書」p165の「冬18時、風速8m/s」を想定した火災被害では、最大26200棟が消失するとされている。この想定は、飲食店でも家庭でも料理に火を使い、乾燥して風速も強い状況を想定している。このように火災被害が発生しやすい状況（乾燥・強風・夕方）でも、消防局・消防団による迅速な消火活動に加え防火に関する啓発や市民意識の向上などで、被害を減らしていくべきと思いますが、いかがか？



→（市答弁要旨）市民の方に配布している防災ハンドブックや、地域防災リーダー養成講座、市職員による防災講話、出前講座や、総合防災燻煙等における初期消火訓練など、あらゆる機会をとらえて啓発を行って、市民の防災意識の向上に努めているとされており、こうした活動が防災・減災につながるものと考えている。

質疑2 「報告書」p242では、平日12時に地震が発生し、鉄道・自動車含むすべての交通機関が停止した場合、船橋市民は市外の外出者が184700人、帰宅困難者は55400人とされている。

外出者のうち帰宅困難者とならない場合、なる場合はそれぞれどのような想定なのか？また帰宅困難者に対して市はどのような対策をお考えているか？

(人)

市外外出者数				帰宅困難者数			
通勤	通学	私事等	計	通勤	通学	私事等	計
約114,200	約33,900	約36,600	約184,700	約37,200	約10,200	約8,000	約55,400

→（市答弁要旨）帰宅困難者は、外出者数と居住地から外出地までの距離によって算出されている。2013年に中央防災会議で示された外出距離別の当日帰宅困難率を用いて予測されていて、居住地から外出地までの距離が10kmで約20%、30kmで約65%、46km以上になると100%が帰宅困難者となると想定されている。

駅周辺の事業者、関係機関・団体及び船橋市などで構成する「船橋駅・西船橋駅周辺帰宅困難者等対策推進協議会」において、混乱防止策や徒歩帰宅者への支援等について協議し、定期的に情報伝達訓練等を実施し協働・連携を図っている。

また、市内の公共施設や民間施設を帰宅困難者支援施設として協定を結び、飲料水、トイレ、災害情報及び休憩場所の提供などを行うこととしている。

質疑3 「報告書」では、他にも様々な角度・分野で厳しい予測がなされ、総合的に防災対策を考えなければなりません。市はこの報告書を受けて、どのように防災対策を考え直していく予定か？

→（市答弁要旨）千葉県による新たな地震（千葉県北西部直下地震）被害想定が発表され、本市としても県の被害想定を検証して、本市の地震被害想定を踏まえ、防災アセスメントや地区別防災カルテなどを作製し、船橋市地域防災計画に反映して参りたい。

また、その結果に基づき、関係部局と情報共有を図り、減災対策に取り組んで参りたい。

報告書全文は千葉県HPよりサイト内検索で「地震被害想定」でご覧いただけます。これに基づいた船橋市の私の質疑全文は、「朝倉幹晴公式サイト」をご覧ください。

結核・インフルエンザなどの感染症への対策を

質疑1 2016年に市内で結核集団感染があった。市立学校教員の結核検診（胸部エックス線検査）実施率は94.1%（2015年度）で妊娠中などを除きほぼ全員が受けている。私も、中高生の学習サポートを続けてきた者として検診を受けているが、一般的には塾講師には検診の法的な義務がない。塾に対する指導は？

→(市答弁要旨) 塾の講師は感染症法上の結核定期健康診断の対象者に規定されていないので受診率等実態の把握ができないが、学習塾に対しては個別通知による注意喚起を行ってまいりたい。

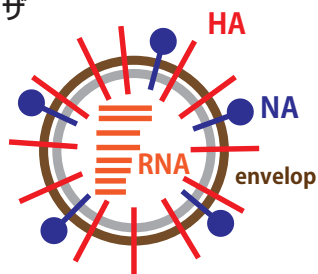
質疑2 実は日本は「結核低まん延国」（人口10万人あたり10人未満）である欧米諸国に比べ、結核感染率が高く、人口10万人あたり14.4人（2015年）の「結核中まん延国」と言われている。国全体で2020年までに低まん延国を目指すと言われているが、船橋市の方針は？

→(市答弁要旨) 引き続き予防接種法に基づくBCG接種の励行、接触者健康診断の確実な実施、患者の確実な治療を行うための服薬支援、様々な機会を捉えた結核についての正しい知識の普及啓発、症状がある時の早期受診・早期発見の周知、確実な患者管理等これまでの対応をさらに積み重ね、関係機関との連携を図りながら一貫した対策の充実を図っていく。

質疑3 インフルエンザに関する予防は？2014年度は129学級、2015年度は175学級学年閉鎖となっているが学級閉鎖の基準はどうなっているか？

→(市教育委員会答弁要旨) 学校では感染症予防のため日々の手洗い・うがい等の励行とともに、毎朝の学級担任が行っている健康観察の結果を「学校欠席者情報収集システム」に入力し、感染症の発生状況を把握している。欠席者が20%に達する恐れのあるとき、あるいは達した時に、学校医と相談して、学級・学年閉鎖を決定する。県内の発生者が国の基準を超えた時に注意報を発令し警戒を呼び掛けている。

インフルエンザウイルス



HAで細胞に侵入、NAで脱出。
(ワクチンはHAを、リレンザ・タミフルはNAを標的) HとNの型により分類。
遺伝子(RNA)は変異が多く毎年流行を繰り返す。

質疑4 感染症対策総論をお聞きしたい。船橋市はいま、世界的な感染症流行の時代に直面している。中でも重大なのは、まずはしかです。日本ではしかは「麻しん」として感染症法に基づく5類感染症に指定され、ワクチン接種が2回必要である。しかし1990年代以降は義務づけられている2回接種をしていない人が二割近くいる。また、流行しているはしかウイルスの型は、数年毎に変化していく。このため近年でも日本国内ではしかは流行を繰り返している。従来アジア・アフリカ諸国で流行していたはしかは、近年欧米でも増大している。増大の理由は、はしか流行国からの渡航者の増加と、ワクチン接種率の低下にある。船橋市は、はしかとワクチンに関する啓発活動を行うべきである。

また、ジカ熱の国際的流行もシンガポールをはじめアジア諸国で広がり重大な脅威である。ジカ熱は主に蚊によって感染するため、蚊が発生しないような環境を含む公衆衛生環境の整備が防疫対策として重要である。

これらも含め「感染症に対応できる街」に対する船橋市の考えは？

→(市答弁要旨) 発生時も迅速に対応できる安心の街を目指すためには、保健所と医療機関、社会福祉施設等、市民一人一人が感染症の予防、拡大防止に対するそれぞれの役割を果たしていくことが重要である。保健所の役割としては、常に感染症に関する最新の情報や発生動向をいち早く収集して、市民、医療関係者及び社会福祉施設等に必要な情報を正確、迅速に提供し、的確に予防策が取れるよう啓発していく。

また、感染症発生時には積極的に疫学調査を行い、迅速に必要な対策を行うことにより感染症の拡大を防止し、市民の健康を守り、安心安全に暮らせるよう、取り組んでいく。

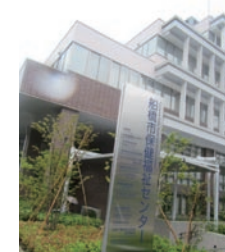
2015年10月開設の新保健所（保健福祉センター）では、最新の遺伝子系含む生物学系の検査技術が導入されています。



←PCR装置
遺伝子を増幅・分析する装置。
疾病の検査に役立つ。



←DNAシーケンサー
DNAの塩基配列を読み取る。
感染経路特定も可能になる。



保健福祉センター

生物学を学び教えてきた者として、遺伝子も含む生物学的検査・技術が感染症対策に役立つのはうれしいです。技術の詳しい解説は「[「朝倉幹晴公式サイト」](#)をご覧ください。

「動物愛護推進」「LGBT・性の多様性を考える」議員連盟

市議会では意見が対立することも多々あります。しかし一方で超党派（自民党～共産党）で学んだり、共同で提言していくことも必要と感じています。

2016年には、「船橋市動物愛護推進議員連盟」（会長、さいとう和夫市議、私は幹事長）「船橋市『性の多様性』を考える議員連盟」（会長、日色健人市議、私は副会長）が発足しました。議員連盟準備にあたっては、鈴木ひろ子市議、石川りょう市議、同じ会派の浦田秀夫市議、三宅桂子市議、池沢みちよ市議はじめ多くの市議会議員と強力させていただきました。無党派の市議として意見をとりまとめさせていただきながらそれぞれの課題を進めていきたい、と考えております。



2016年10月4日 動物愛護推進議員連盟



2016年7月21日 LGBT学習会
講師 伊藤悟さん(千葉大講師)

熊本地震と「創造的復興」

2016年4月の熊本地震の直後（4月25～28日）と9月23～25日に、私は熊本市と益城町に伺い震災ボランティアに参加しました。4月は避難所、9月は仮設住宅の運営の手伝いをしました。

4月には、医療支援に奔走する保健師をはじめとする医療関係者の奮闘を拝見させていただきました。9月には、蒲島郁夫熊本県知事のご講演にて、熊本県が目指す「創造的復興」のお話を伺いました。

「創造的復興」とは、ただ過去に戻すのではなく、県民が「あたりまえの日常のありがたさを改めて知った」「絆～県民が1つになった」「支援への感謝の気持ち」を感じて新たに再出発する」とのことです。

具体的な方針は、仮設住宅に熊本県産材で作った集会所を設置し、ペットの入居も可能にする、などです。この教訓や方針を船橋の防災対策にも生かしていくべき、と考えます。



仮設住宅



県産材を使った仮設住宅の集会所



仮設住宅の縁側にくつろぐ犬(同居可)

全ての中学校区に「学習サポート」の場を

今「子どもの貧困」の中で、十分な学習機会を得ることができず、入試や就職で不利な状態に置かれる子ども達があります。

私は長く予備校講師として予備校に通うことができる生徒を教えてきました。東日本大震災・福島原発事故以降は、原発被災で首都圏（船橋・飯田橋）に避難してきた小中学生の学習サポートに参加し、以降、児童養護施設（恩寵園）・母子生活支援施設（青い鳥ホーム）などでも学習サポートをしてきました。

同時に、市議会では、船橋市としても学習サポートをするように発言してきました。いま、市は生活保護・就学援助・ひとり親世帯の中学生への「学習サポート」を市内4カ所（2017年初めの時点）で実施しています。

さらに全ての中学生が歩いて通えるように、全27中学校区で「学習サポート」を実施すべき、と引き続き、市議会から市に対して求めていきます。

★現状（2017年始めの時点）の4カ所では不足しているため、私自身もボランティア協力者とともに、小中学校・受験生の学習サポートと、とくに千葉県公立高校入試数学（図形）対策講座を実施しています。お子さんの学習に、よかったですらご活用ください。日時・場所は私の公式サイトでご確認ください。（また学習サポートの場所の提供やボランティア協力者も募集中です。ぜひご連絡ください）

東大駒場祭で講演「駒場寮から考えるコマバの未来」



2016年11月26日の東京大学駒場祭の学術企画（主催 街づくりを考える学生団体KOMABACK）において、「駒場寮から見たコマバの未来」の講演をいたしました。私は、学生時代、応援部で東京六大学野球の応援をするるとともに、



学生寮（駒場寮、2001年廃寮）の委員長をしていました。（中央図書館所蔵の「東大駒場寮物語」（角川書店）p163をご覧ください。）

いま経済的に苦しい大学生が増える中、学生寮やシェアハウスの価値が見直されつつあります。そんななかで寮の共同生活の面白さを話させていただきました。また同時に、駒場キャンパスのある目黒区駒場では、公務員住宅・郵政宿舎が撤退し、その跡地利用が議論になってきています。これに関係して船橋市塚田地区（二和）地区の国家公務員住宅・体育センター撤退後、あるいは工場撤退後の再開発と今後の計画（グラウンド・福祉関連施設、小中学校）を話させていただきました。

新しい時代を迎える駒場の街づくりにお役にたてれば幸いです。（講演の記録は公式サイトあるいはYouTubeにて「朝倉幹晴 東大駒場祭」で検索してご覧ください）